

1. 人口の動向

(1) 総人口の推移

① 総人口および将来人口推移

国勢調査から西尾市の総人口推移をみると、市制施行後、市の発展に合わせて一貫して増加を続けており、平成 27(2015)年には総人口 16.6 万人となっています。

日本全体では、平成 20 (2008) 年をピークに減少に転じる中、現状と同様の合計特殊出生率 (1.58) や移動率 (H17→22) で推移したと仮定すると、本市の人口は、平成 27(2015)年の 16.6 万人をピークに減少に転じる見込みであり、平成 52 (2040) 年で 15.6 万人、平成 72 (2060) 年には 13.9 万人にまで減少すると予想されています。

地区別にみると、旧西尾では平成 32 (2020) 年頃の 10.9 万人をピークに減少に転じ、平成 72 (2060) 年には 9.4 万人と平成 27 (2015) 年と比較して 86.5%となると予想されています。

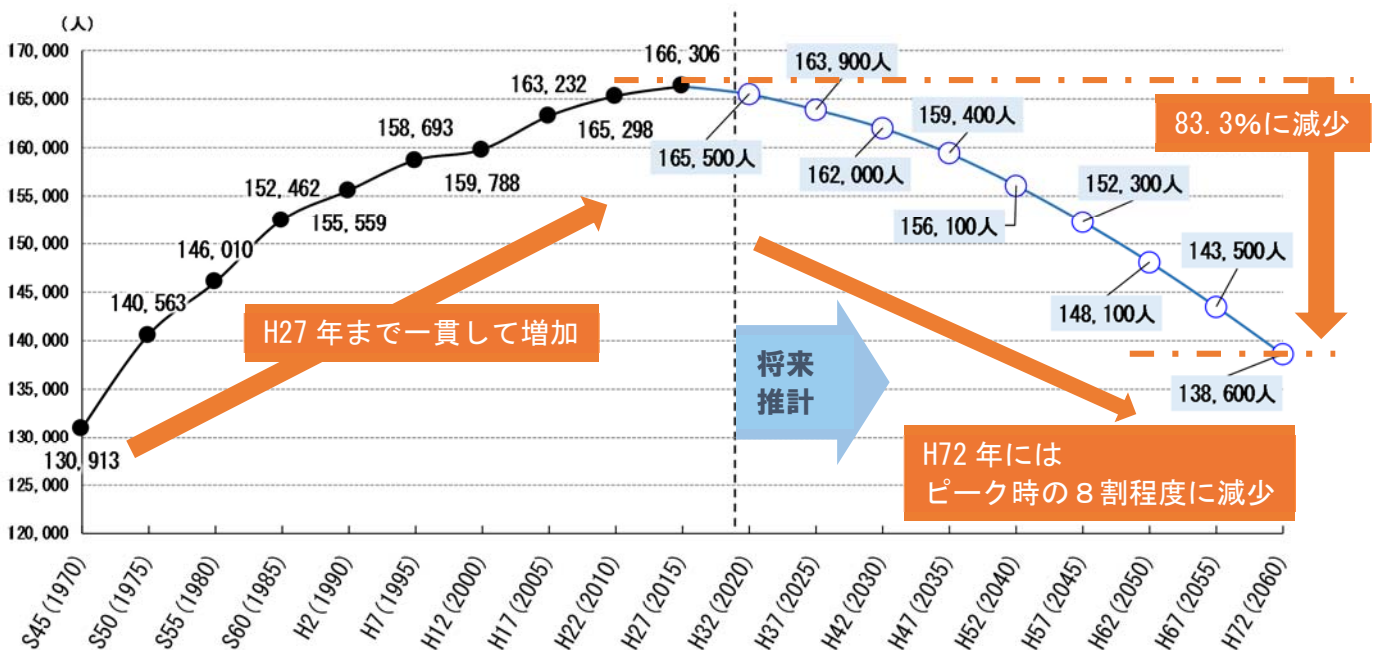
旧一色では昭和 60 (1985) 年の 2.5 万人をピークに減少傾向となっており、平成 72 (2060) 年には 1.8 万人と平成 27 (2015) 年と比較して 78.2%となると予想されています。

旧吉良では平成 22 (2010) 年の 2.2 万人をピークに減少傾向となっており、平成 72 (2060) 年には 1.8 万人と平成 27 (2015) 年と比較して 79.3%となると予想されています。

旧幡豆では昭和 60 (1985) 年の 1.4 万人をピークに減少傾向となっており、平成 72 (2060) 年には 8.5 千人と平成 27 (2015) 年と比較して 71.8%となると予想されています。

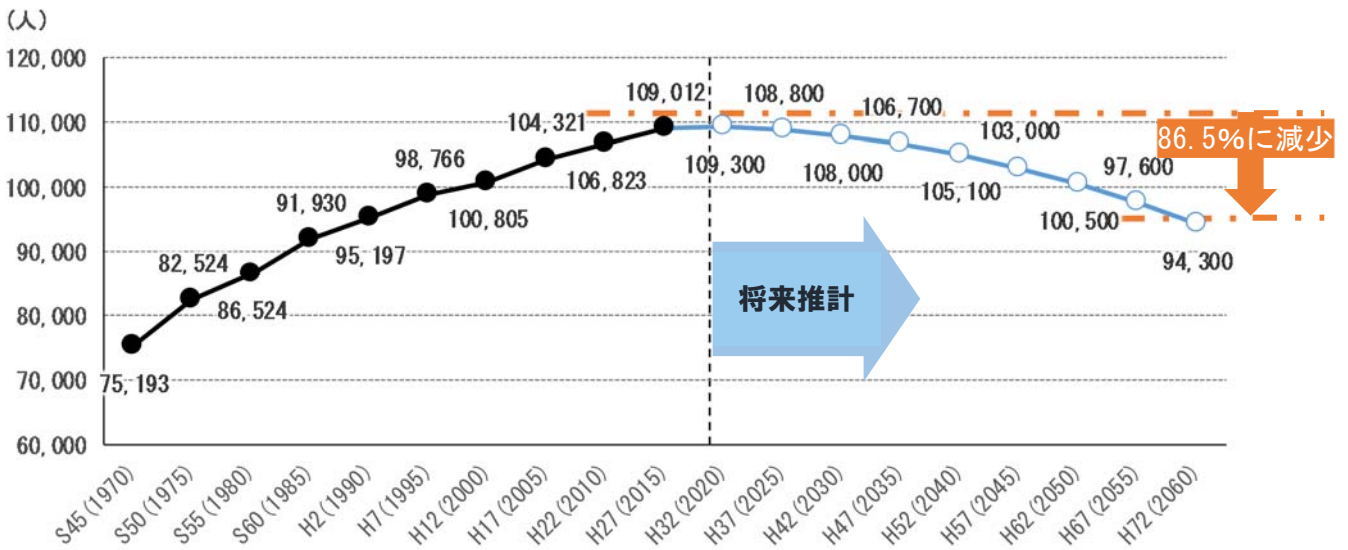
旧幡豆では現状よりも約 3 割減少するなど、旧 3 町地域での減少率が大きくなっています。

図表 2 総人口の推移 (西尾市)



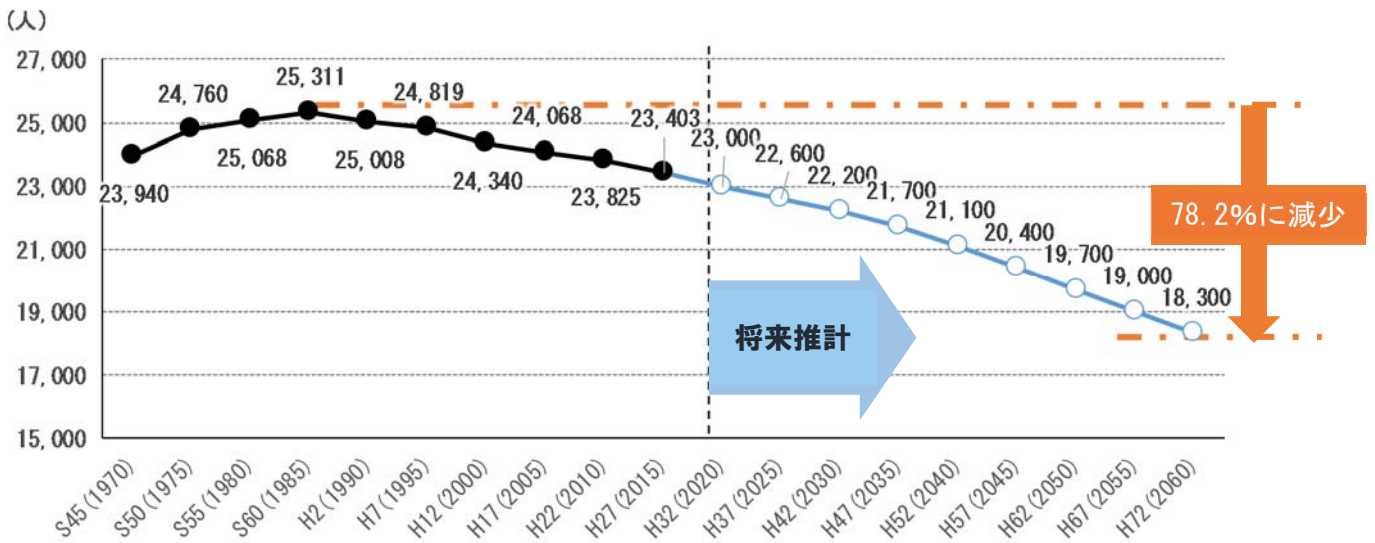
資料：H22 (2010) 年までは国勢調査、H27 (2015) 年はあいちの人口、H32 (2020) 年以降は独自推計

図表 3 地区別総人口の推移（旧西尾）



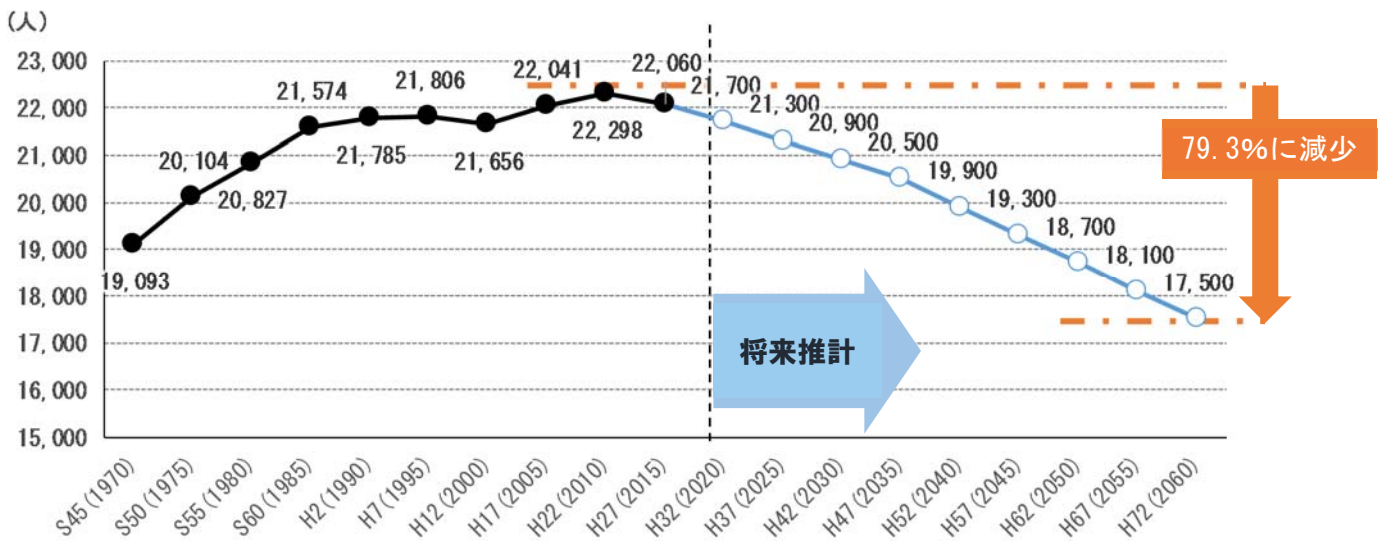
資料：H22（2010）年までは国勢調査、H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

図表 4 地区別総人口の推移（旧一色）



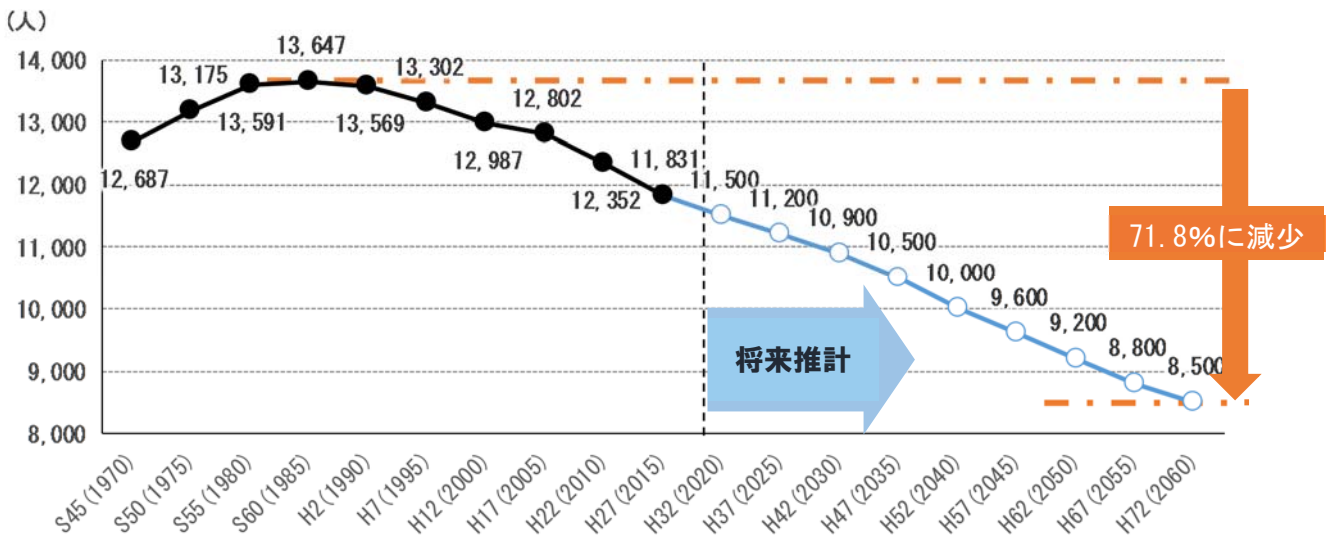
資料：H22（2010）年までは国勢調査、H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

図表 5 地区別総人口の推移（旧吉良）



資料：H22（2010）年までは国勢調査、H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

図表 6 地区別総人口の推移（旧幡豆）

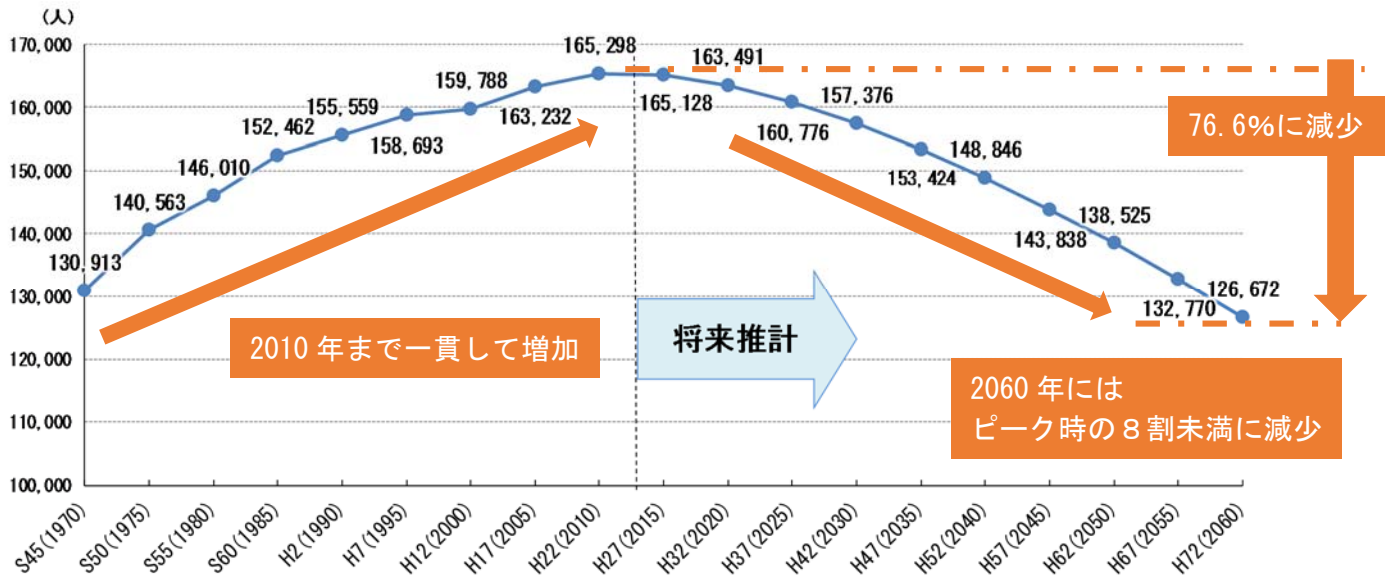


資料：H22（2010）年までは国勢調査、H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

② 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計

日本全体では、平成 20 (2008) 年をピークに減少に転じる中、国立社会保障・人口問題研究所の推計 (国勢調査ベース) によると、本市の人口は、平成 22 (2010) 年の 16.5 万人をピークに減少に転じる見込みであり、平成 52 (2040) 年で 14.9 万人、平成 72 (2060) 年には 12.7 万人にまで減少すると予想されています。

図表 7 総人口の推移 (西尾市)



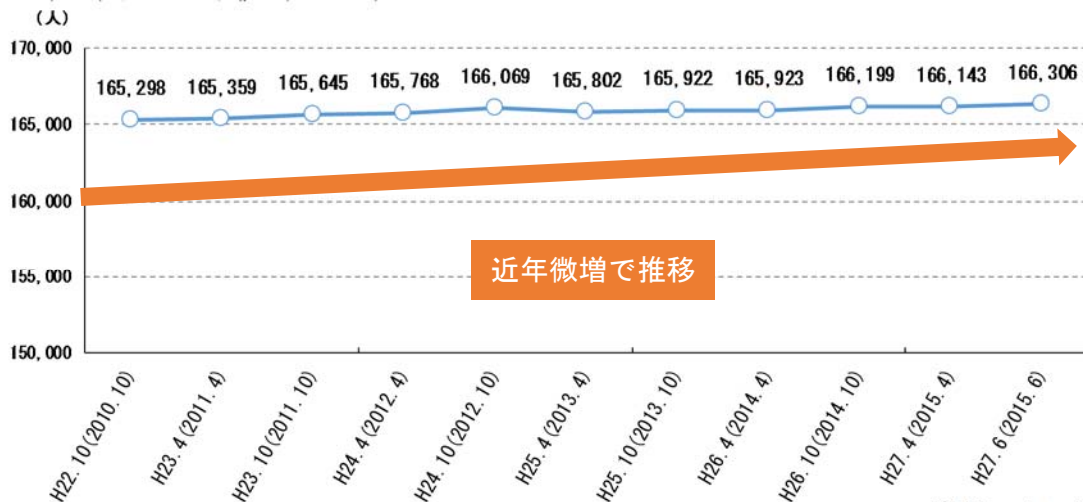
資料：H22 (2010) 年までは国勢調査
H27 (2015) 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3 推計)

③ 近年の人口推移

平成 22 (2010) 年から平成 27 (2015) 年までの人口推移をみると、微増で推移しており、平成 27 (2015) 年 6 月時点で 16 万 6,306 人と平成 22 (2010) 年から約 1,000 人程度増加しています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計値では、平成 22 (2010) 年をピークに減少傾向となっていました。実際には、人口は微増しており、人口減少局面には入っていないものと考えられます。

図表 8 近年の総人口の推移 (西尾市)



資料：あいちの人口

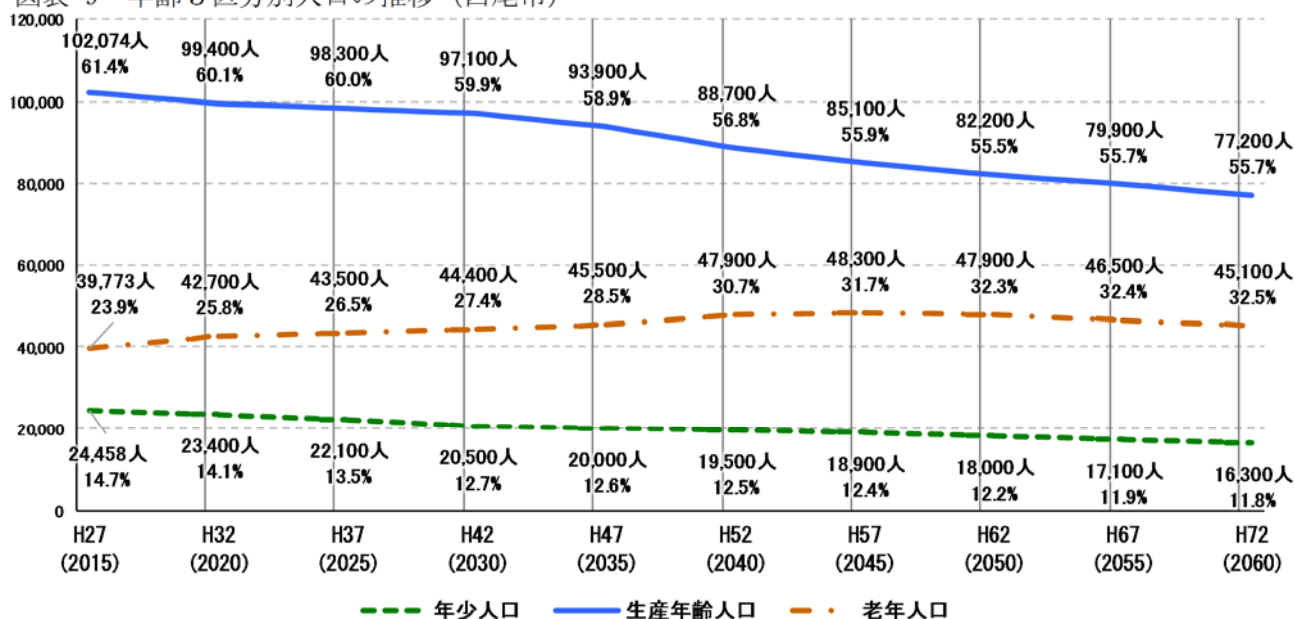
(2) 年齢3区分別人口の推移

① 3区分別人口

年齢3区分別人口の推移をみると、平成72(2060)年には市全体の32.5%が65歳以上となり、平成27(2015)年の23.9%から8.6ポイントの増加となる見込みです。

平成27(2015)年には、生産年齢人口2.6人で1人の老年人口を支えていたのに対し、平成72(2060)年には1.7人で1人を支える推計となっており、生産年齢人口1人あたりの負担がおよそ1.5倍になる見込みです。

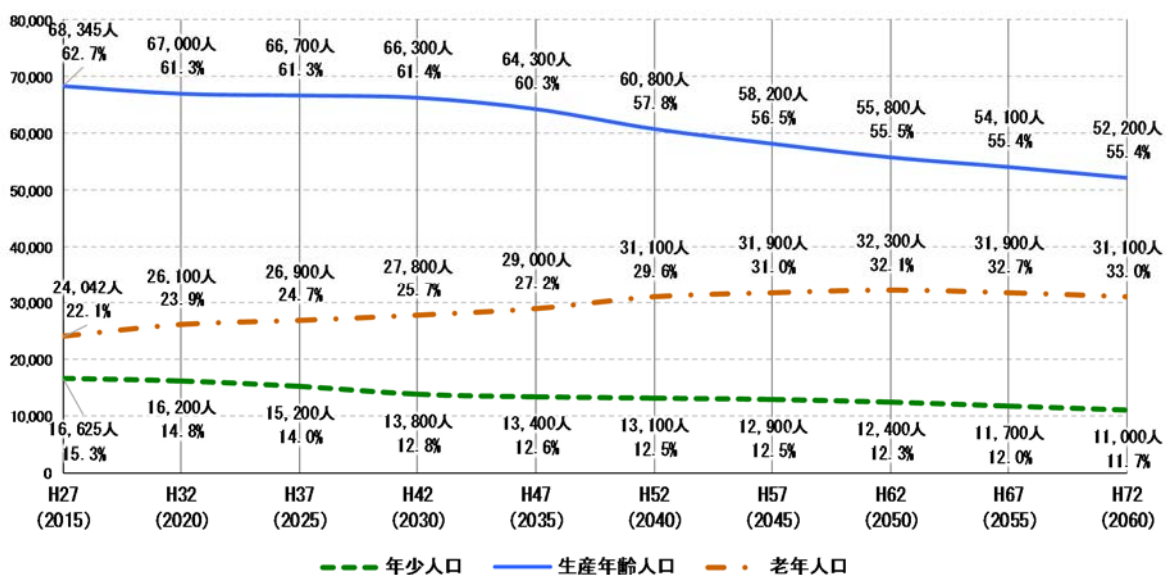
図表9 年齢3区分別人口の推移(西尾市)



資料：H27(2015)年はあいちの人口(推計)、H32(2020)年以降は独自推計

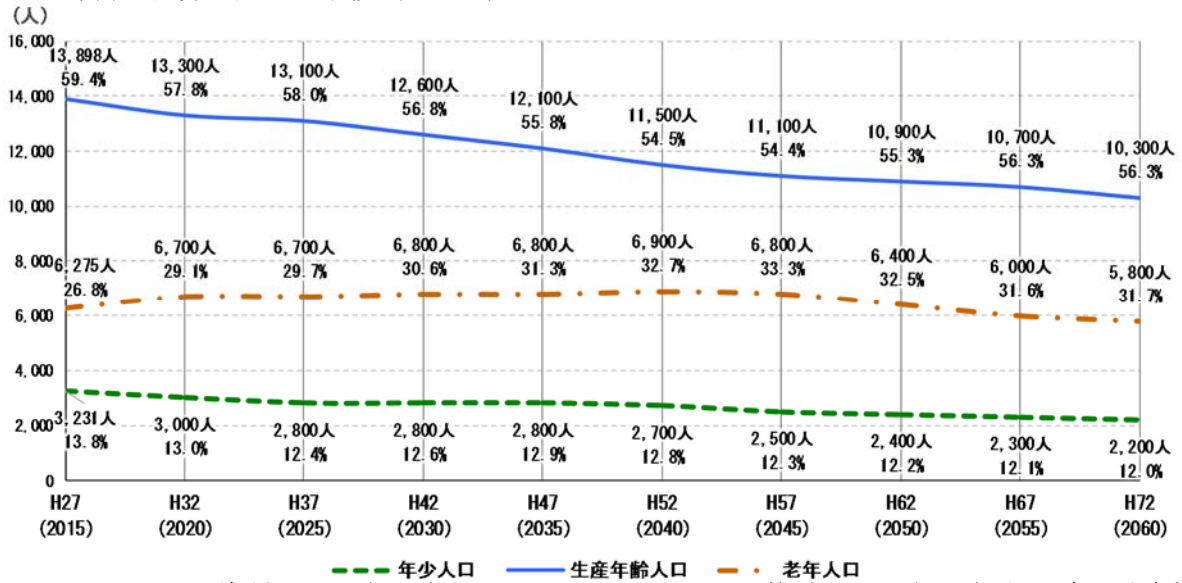
図表10 年齢3区分別人口の推移(旧西尾)

(人)



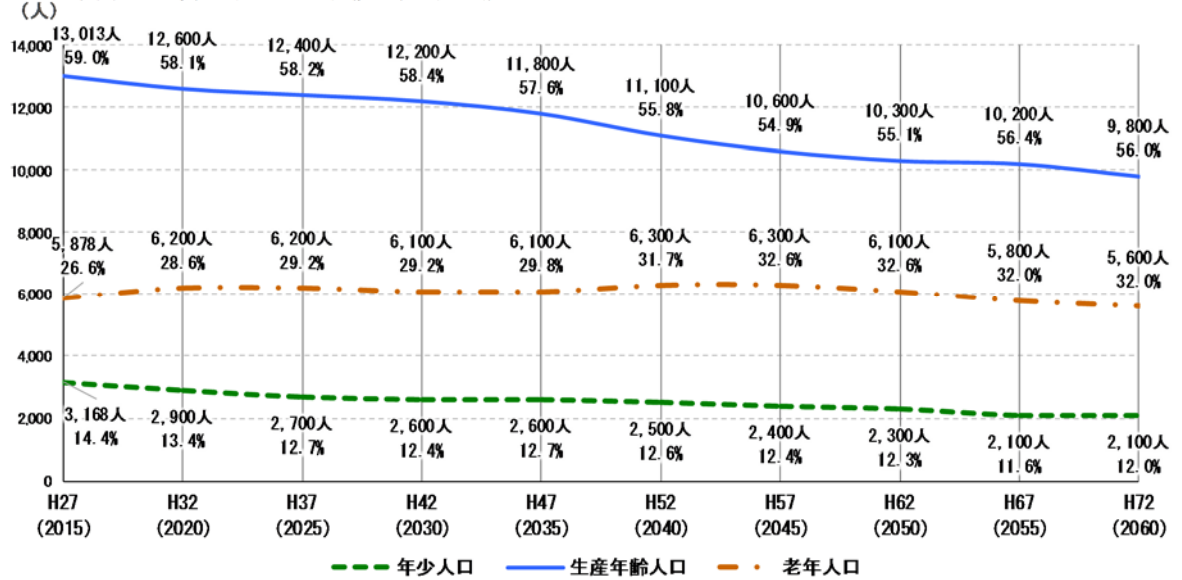
資料：H27(2015)年はあいちの人口からの推計、H32(2020)年以降は独自推計

図表 11 年齢3区分別人口の推移 (旧一色)



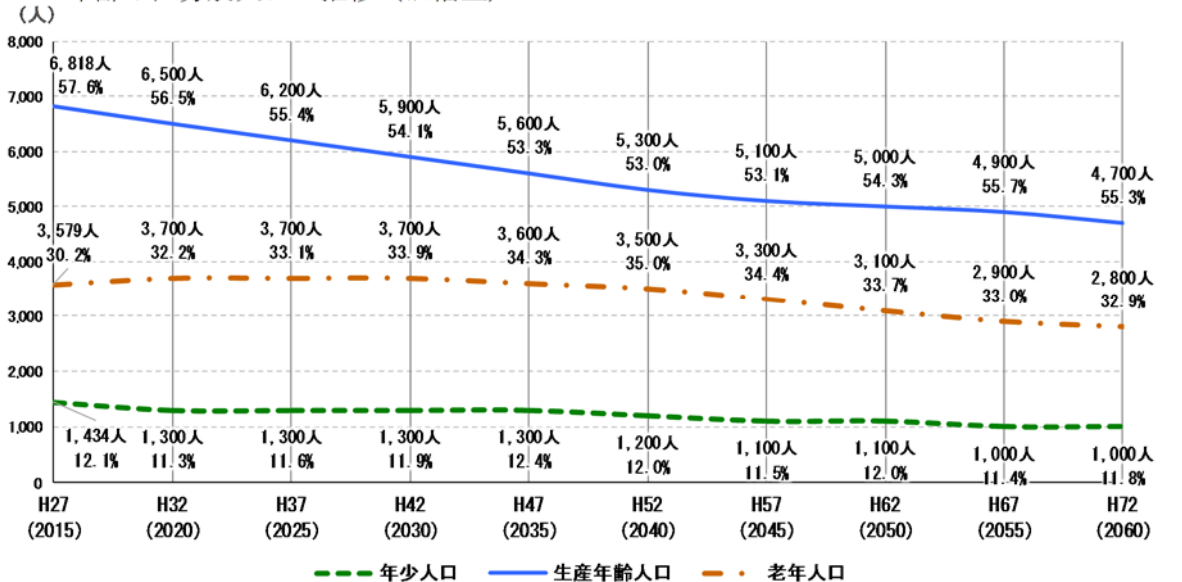
資料：H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

図表 12 年齢3区分別人口の推移 (旧吉良)



資料：H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

図表 13 年齢3区分別人口の推移 (旧幡豆)



資料：H27（2015）年はあいちの人口からの推計、H32（2020）年以降は独自推計

② 地域（町内会）別高齢化の状況

本市の409ある地域（町内会）について、高齢化率の状況をみると、21～30%未満の地域が多くなっています。また、高齢化率が50%超の地域は、西尾地域3地域、一色、幡豆地域各1地域の合計5地域あり、これらの地域については、町内会のあり方について早急に検討を行っていく必要があります。

図表 14 高齢化率別行政区数

地区	～14%未満	14～21%未満	21～30%未満	30～50%未満	50%～	合計
西尾	42	68	142	67	3	322
一色	1	1	20	7	1	30
吉良	1	2	18	6	0	27
幡豆	1	0	12	16	1	30
合計	45	71	192	96	5	409

資料：住民基本台帳（H27（2015）年6月1日時点）

図表 15 地域（町内会）別高齢化率 その1

地区	町内会	高齢化率	地区	町内会	高齢化率	地区	町内会	高齢化率
西尾	須田町十三戸	33.3%	西尾	柳町東部	27.6%	西尾	新渡場住宅	12.5%
	本町	21.6%		柳町南部	24.2%		住崎町第1区	18.6%
	北本町	36.4%		柳町西部	24.0%		住崎町第2区	22.3%
	幸町	38.0%		柳町北部	25.7%		住崎町第3区	20.3%
	肴町	24.7%		東住吉町	32.2%		住崎町第4区	11.4%
	天王町	40.7%		高畠町	27.1%		住崎町第5区	14.5%
	中町	30.3%		若松町	30.9%		住崎町第6区	8.9%
	錦城町	34.3%		北旭町	29.4%		中畑町第1区	27.8%
	葵町	22.3%		高砂町	31.9%		中畑町第2区	23.0%
	塩町	41.0%		南旭町	29.2%		中畑町第3区	28.0%
	満全町	40.9%		吾妻町	26.3%		中畑町第4区	17.5%
	会生町	37.8%		城崎町	10.9%		中畑町第5区	36.0%
	会生南	45.8%		堀ノ内町	26.6%		中畑町第6区	32.1%
	順海町	26.9%		北側町	17.6%		中畑町第7区	36.8%
	和泉町	46.7%		上組町	26.3%		中畑町第8区	32.6%
	伊文町	32.6%		横作町	34.5%		中畑町第9区	26.1%
	森本伊文町	25.0%		三丁町	28.2%		中畑町第10区	24.2%
	瓦町	27.7%		浜六町	28.1%		平坂町第1区	21.3%
	矢場町	37.2%		小間町	27.3%		平坂町第2区	23.4%
	大給町	36.6%		下町	31.3%		平坂町第3区	28.1%
	馬場町	28.2%		法光寺町	22.9%		平坂町第4区	19.8%
	弥生町	25.6%		矢曾根町	31.7%		平坂町第5区	37.1%
	末広町	35.8%		下今川町	20.4%		平坂町第6区	24.8%
	亀沢西部	16.2%		上今川町	19.8%		平坂町第7区	28.6%
	亀沢千歳町	39.0%		丁田町	15.5%		平坂町第8区	35.1%
	鶴ヶ崎町	26.4%		寄近町	22.3%		平坂町第9区	24.4%
	新屋敷町	26.2%		徳次町	14.7%		平坂町第10区	27.4%
	菅原町	30.3%		八ツ面町	33.2%		平坂町第11区	38.0%
	宮町	18.0%		志籠谷町	23.7%		平坂町第12区	27.0%
	桜町1部	15.6%		志貴野町	25.8%		平坂町第13区	26.1%
	桜町2部	15.5%		中原町	23.9%		平坂町第14区	25.3%
桜町3部	17.1%	中原住宅	64.8%	楠村町第1区	22.0%			
桜町4部	17.9%	新渡場町	21.2%	楠村町第2区	9.4%			
神下町	31.7%	下町住宅	31.0%	楠村町第3区	8.0%			
永楽町1丁目	42.9%	八ツ面団地	17.6%	楠村町第4区	26.7%			
永楽町4丁目	25.9%	上町住宅	21.5%	楠村町第5区	29.7%			
北永楽町	32.0%	戸ヶ崎町	21.3%	西小瀬町	28.0%			
南永楽町	30.4%	戸ヶ崎五丁目	20.5%	小栗町	36.6%			
花ノ木町2丁目	29.6%	八ツ面新町	37.2%	奥田町	29.7%			
三条通り	40.0%	亀沢新町	17.9%	南奥田町	38.7%			

図表 16 地域（町内会）別高齢化率 その2

地区	町内会	高齢化率	地区	町内会	高齢化率	地区	町内会	高齢化率
西尾	羽塚町第1区	28.4%	西尾	本町	39.2%	西尾	東浅井町	22.3%
	羽塚町第2区	23.8%		南馬場町	34.2%		西浅井町	23.9%
	羽塚町第3区	12.8%		東脇町	24.6%		小島町	24.7%
	羽塚町第4区	22.1%		西脇町	28.3%		米野町	31.3%
	羽塚町第5区	18.6%		栄町	26.6%		三江島町	26.1%
	羽塚町第7区	22.3%		河原町	27.0%		江原町	22.7%
	羽塚町第6区	17.6%		西組町	24.1%		和気町	18.5%
	西新田	19.6%		中根町	38.5%		大和田町	16.8%
	新在家新町	21.1%		田地山	15.3%		高河原町	26.6%
	田貫町第1	28.1%		美之掛町	29.5%		岡島町	23.9%
	田貫町第2	21.1%		白山町	25.6%		尾花町	24.0%
	中畑町第1区	20.2%		小焼野町	21.4%		下永良町	26.4%
	中畑町第2区	15.0%		宅野島町	23.9%		上永良町	21.3%
	平坂町第1区	28.4%		鞆ヶ池町	30.4%		貝吹町	27.1%
	平坂町第2区	31.6%		鎌谷町	30.8%		下羽角町	10.9%
	楠村町第6区	16.4%		十郎島町	27.0%		上羽角町	23.9%
	田貫町第3	11.5%		上細池町	30.7%		小島住宅	24.8%
	新在家町1区	21.0%		下細池町	24.5%		つくしが丘二丁目	18.1%
	新在家町2区	22.0%		川口町	22.9%		つくしが丘三丁目	0.0%
	新在家町3区	20.0%		深池町	20.7%		つくしが丘四丁目	27.2%
	上矢田町第1区	24.3%		菱池町	26.7%		西浅井町宮下	6.6%
	上矢田町第2区	29.7%		須脇町	29.5%		米津町1組	21.7%
	上矢田町第3区	16.4%		斉藤町	23.7%		米津町2組	21.1%
	上矢田町第4区	10.2%		熱池町	24.4%		米津町3組	20.6%
	上矢田町第5区	12.9%		長縄町	32.8%		米津町4組	23.6%
	上矢田町第6区	17.2%		上道目記町	23.1%		米津町5組	33.6%
	下矢田町第1区	17.7%		下道目記町	22.8%		米津町6組	23.5%
	下矢田町第2区	24.8%		針曾根町	25.5%		米津町7組	26.4%
	下矢田町第3区	22.5%		行用町	26.1%		米津町8組	32.8%
	下矢田町第4区	15.5%		八ヶ尻町	28.6%		米津町9組	31.9%
	楠村町第7区	11.0%		市子町	34.7%		米津町10組	15.9%
	田貫町第4	14.5%		平口町	37.6%		米津町11組	13.9%
	羽塚町第8区	9.0%		笹曾根町	23.1%		米津町13組	19.7%
	楠村町第8区	7.7%		横手町	22.6%		米津町14組	11.2%
	楠村町第9区	10.5%		天竹町	29.6%		米津町15組	20.1%
	楠村町第10区	8.4%		野々宮町	32.5%		米津町16組	24.1%
	楠村町第11区	29.9%		鎌谷新町	52.9%		南中根町第1	25.3%
	楠村町第12区	22.1%		室町	22.8%		米津町17組	29.4%
	平坂町第1区	16.6%		駒場町	22.9%		米津町18組	14.8%
	徳永町	18.1%		花蔵寺町	25.9%		南中根町第2	24.2%
	北若王子町	25.4%		善明町	35.0%		米津町19組	13.8%
	南若王子町	30.0%		家武町	26.0%		米津町12組の1	19.9%
	二ツ家南町	24.3%		平原町	31.4%		米津町12組の2	14.4%
	二ツ家北町	15.3%		室町住宅	18.5%		米津町20組	22.6%
	幸町	26.2%		つくしが丘一丁目	0.0%		山下町第1区	22.2%
	平和町	33.3%		つくしが丘五丁目	15.6%		山下町第2区	27.4%
	西市場町	26.7%		つくしが丘六丁目	9.1%		山下町第3区	25.3%
	東市場町	32.5%		父橋住宅	58.2%		中野郷団地第1	47.3%
	天王山町	34.3%		高落町	27.8%		中野郷団地第2	20.1%
	旭町	35.4%		新村町	24.8%		新下町	24.2%

資料：住民基本台帳（H27（2015）年6月1日時点）

図表 17 地域（町内会）別高齢化率 その3

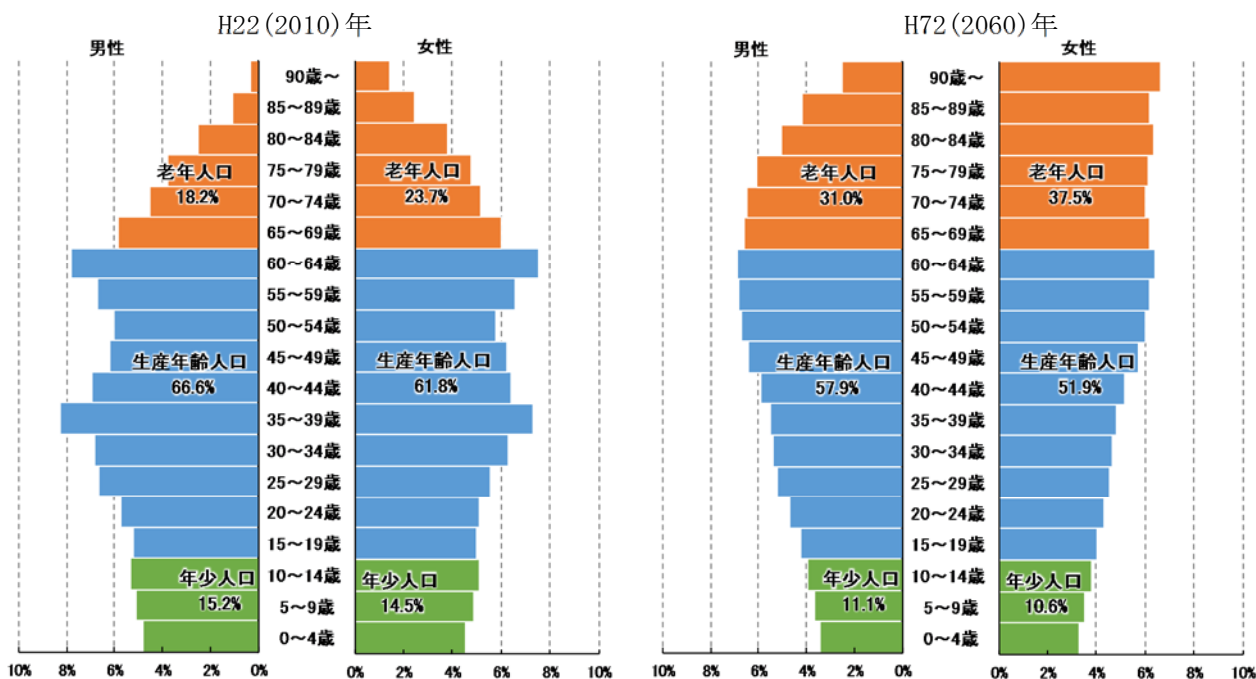
地区	町内会	高齢化率	地区	町内会	高齢化率	地区	町内会	高齢化率		
西尾	緑町	25.6%	一色	開正	28.4%	幡豆	鹿川組	32.0%		
	寄住町第1区	18.2%		開正団地	21.6%		洲崎組	27.8%		
	寄住町第2区	22.1%		赤羽	24.3%		山口	28.4%		
	寄住町第3区	15.8%		治明北部	27.2%		谷組	23.6%		
	寄住町第4区	9.4%		治明南部	29.5%		森組	28.4%		
	今川新町	16.2%		治明団地	10.5%		彦田組	30.3%		
	熊味町第1区	16.6%		養ヶ島	32.1%		中柴組	32.7%		
	熊味町第2区	20.9%		細川	31.0%		本郷組	31.8%		
	熊味町第3区	13.2%		中外沢	27.3%		上畑組	34.9%		
	須田町	32.4%		味浜一区	24.9%		桑畑組	29.6%		
	鶴舞天神町1区	29.7%		味浜二区	29.4%		三ヶ根組	33.3%		
	鶴舞天神町2区	32.1%		一色一区	20.8%		7番組	28.3%		
	鶴舞天神町3区	27.4%		一色二区	32.7%		6番組	25.9%		
	鶴舞天神町4区	22.5%		一色三区	29.1%		5番組	35.0%		
	永吉町第1区	26.6%		一色四区	26.7%		岡割組	30.5%		
	永吉町第2区	31.2%		藤江坂田	29.4%		4番組	30.1%		
	永吉町第3区	19.5%		池田	25.1%		3番組	30.0%		
	桜町4部（緑町住宅）	9.9%		前野北部	26.1%		2番組	29.9%		
	戸ヶ崎4丁目第1区	17.6%		前野南部	38.5%		1番組	23.7%		
	戸ヶ崎4丁目第2区	23.1%		対米	26.1%		8番組	31.6%		
	山下町第4区	30.3%		対米団地	43.3%		9番組	29.4%		
	永吉町第4区	8.0%		大塚	21.9%		10番組	30.3%		
	新山下町	4.7%		野田	25.8%		11番組	46.1%		
	戸ヶ崎3丁目第1区	16.9%		松木島	25.5%		12番組	29.2%		
	戸ヶ崎3丁目第2区	18.6%		千間	22.8%		13番組	30.2%		
	宮東	13.9%		生田	26.9%		14番組	31.6%		
	戸ヶ崎1・2丁目1区	20.0%		酒手島	24.2%		鳥羽団地	52.5%		
	戸ヶ崎1・2丁目2区	20.8%		惣五郎	31.5%		鳥羽第2団地	44.8%		
	永吉町第5区	5.9%		佐久島西	62.9%		工業団地	21.6%		
	熊味町第4区	15.8%		佐久島東	44.2%		はげヶ丘	8.7%		
	熊味町第5区	11.2%		吉良	吉田第1区		24.9%			
	伊藤町1区	25.6%			吉田第2区		25.4%			
	伊藤町2区	15.5%			吉田第3区		26.3%			
	伊藤町3区	11.5%			吉田第4区		25.4%			
	伊藤町4区	10.6%			吉田第5区		34.1%			
	花ノ木町1丁目	9.1%			吉田第6区		30.6%			
	住崎町第7区	9.7%			富好		25.4%			
	桜木町	6.0%			小山田		33.1%			
	道光寺町I部	16.8%			乙川		29.8%			
	道光寺町II部	26.2%			宮崎		46.6%			
	富山町第1区	6.0%			饗庭		30.7%			
富山町第2区	8.9%	荻東	22.6%							
富山町第3区	9.6%	荻西	26.5%							
浜町	26.7%	富八	25.3%							
北刈宿町	19.6%	横須賀第1区	20.2%							
南刈宿町	29.2%	横須賀第2区	25.0%							
富山町第4区	4.1%	横須賀第3区	31.0%							
国森町第1区	17.9%	横須賀第4区	24.0%							
国森町第2区	14.4%	横須賀第5区	27.1%							
国森町第3区	18.8%	横須賀第6区	19.0%							
下矢田町第5区	8.3%	横須賀第7区	25.8%							
平坂町第18区	6.5%	駸馬	25.1%							
		宮迫	28.3%							
		津平	29.8%							
		友国	27.0%							
		横須賀第8区	26.1%							
		吉田第7区	10.3%							

資料：住民基本台帳（H27（2015）年6月1日時点）

(3) 年齢別人口構成

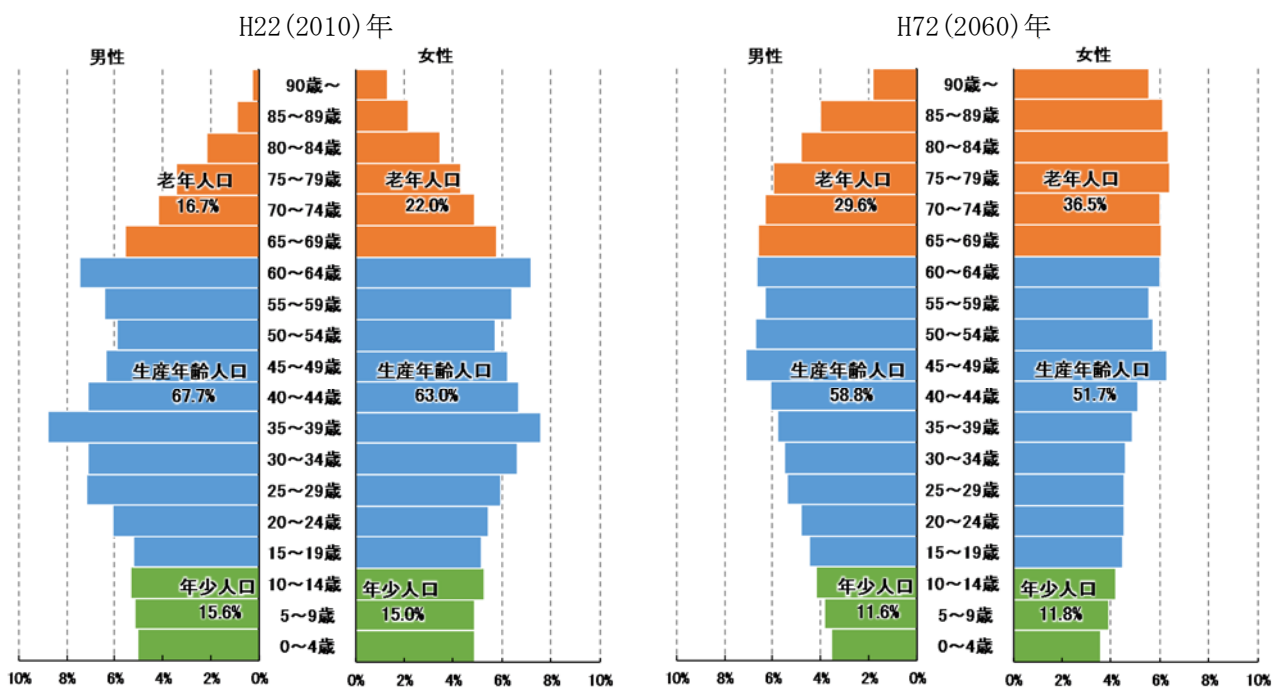
「年少人口・生産年齢人口の減少」と「老年人口の増加」が一層顕著に進行していきます。

図表 18 人口ピラミッド (西尾市)



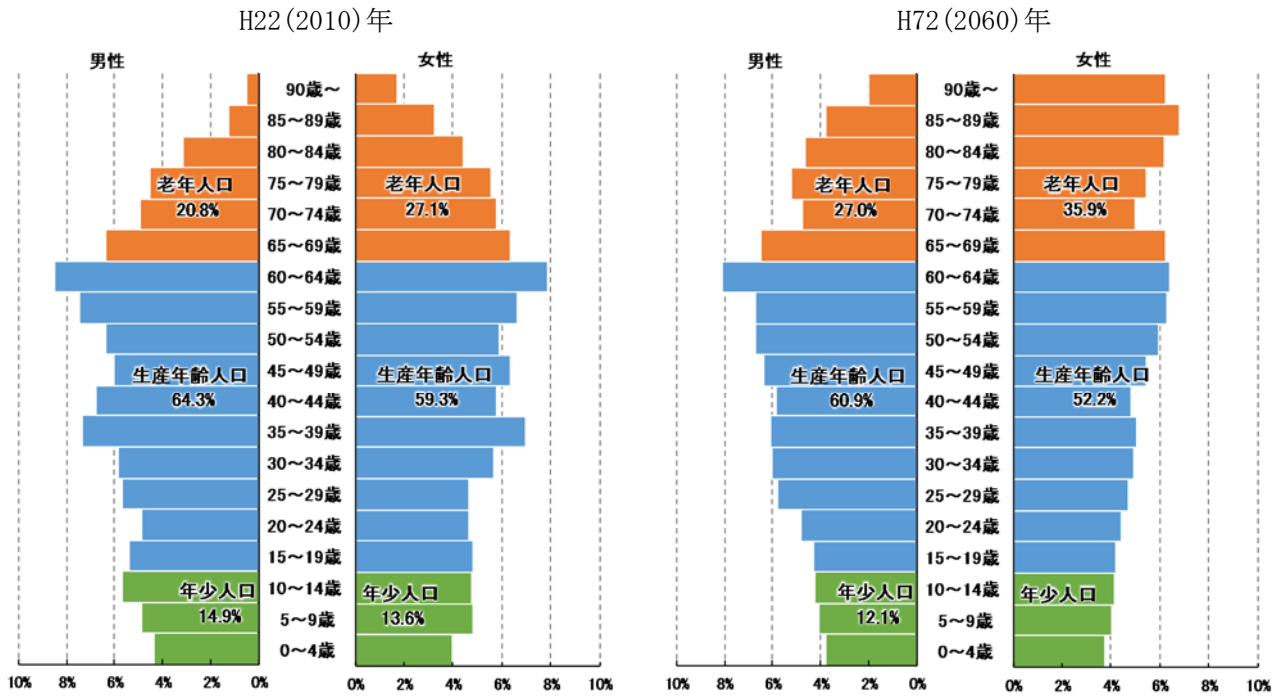
資料：H22（2010）年は国勢調査、H72（2060）年は独自推計

図表 19 人口ピラミッド (旧西尾)



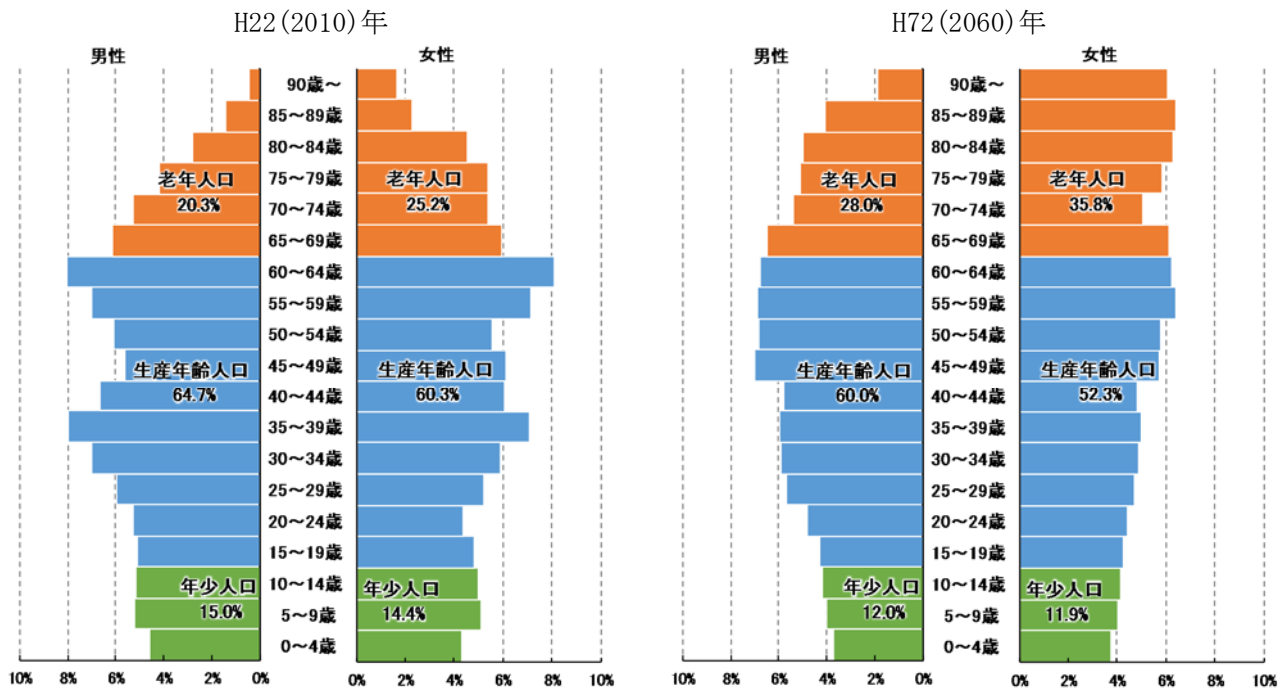
資料：H22（2010）年は国勢調査、H72（2060）年は独自推計

図表 20 人口ピラミッド (旧一色)



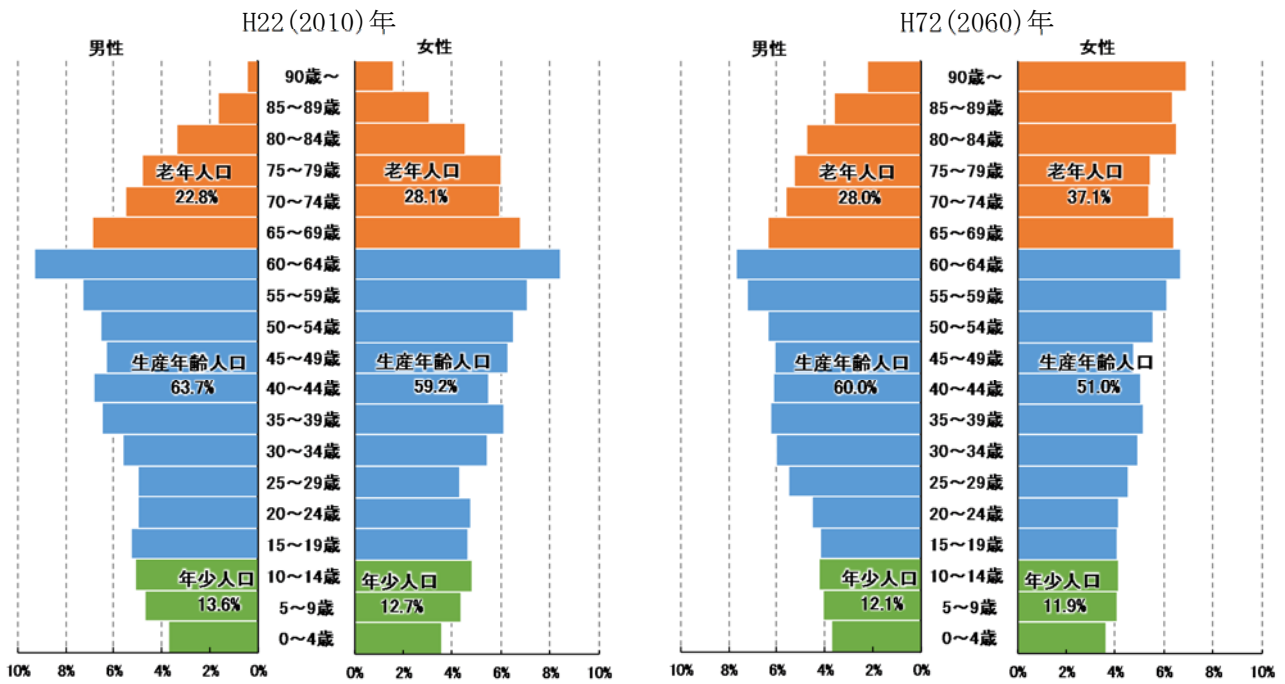
資料：H22 (2010) 年は国勢調査、H72 (2060) 年は独自推計

図表 21 人口ピラミッド (旧吉良)



資料：H22 (2010) 年は国勢調査、H72 (2060) 年は独自推計

図表 22 人口ピラミッド (旧幡豆)



資料：H22 (2010) 年は国勢調査、H72(2060) 年は独自推計

(4) 人口増減

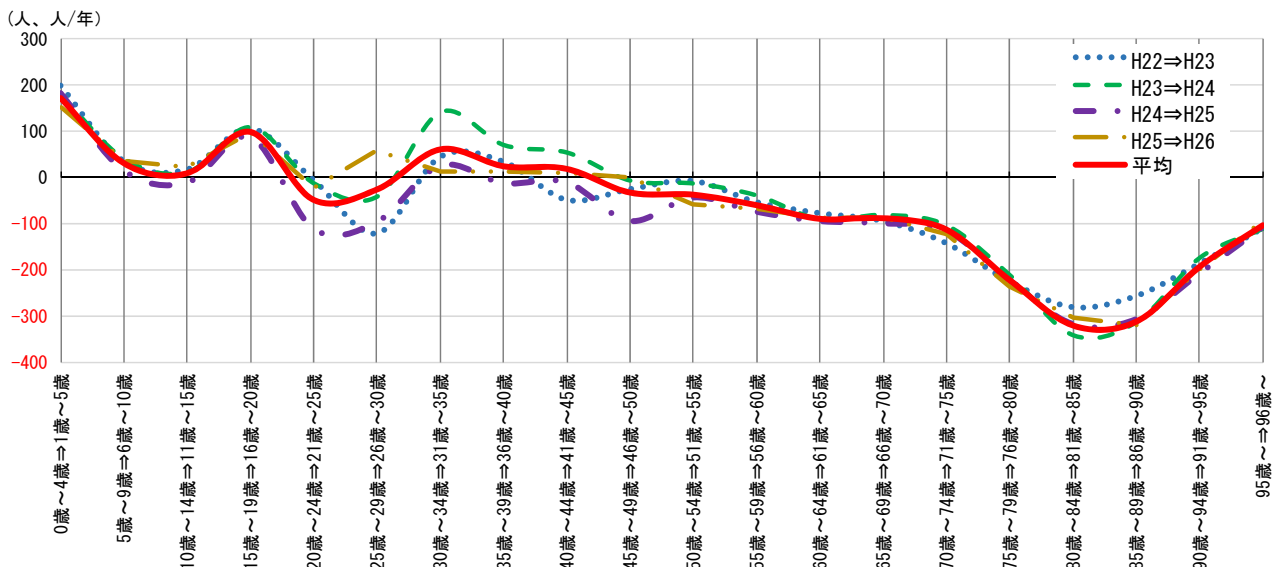
① 西尾市全体の人口増減

平成 22 年から平成 26 年まで、1 歳ごとの人口増減をみてみると、0～4 歳の子どもが 1～5 歳になるまでに 100 人超の増加となっています。

30 代前半も増加していることから、小さな子どもを伴って市外から転入しているファミリー層が多いと考えられます。

10 代後半についても 100 人程度の増加が見られます。

図表 23 人口増減 (西尾市)



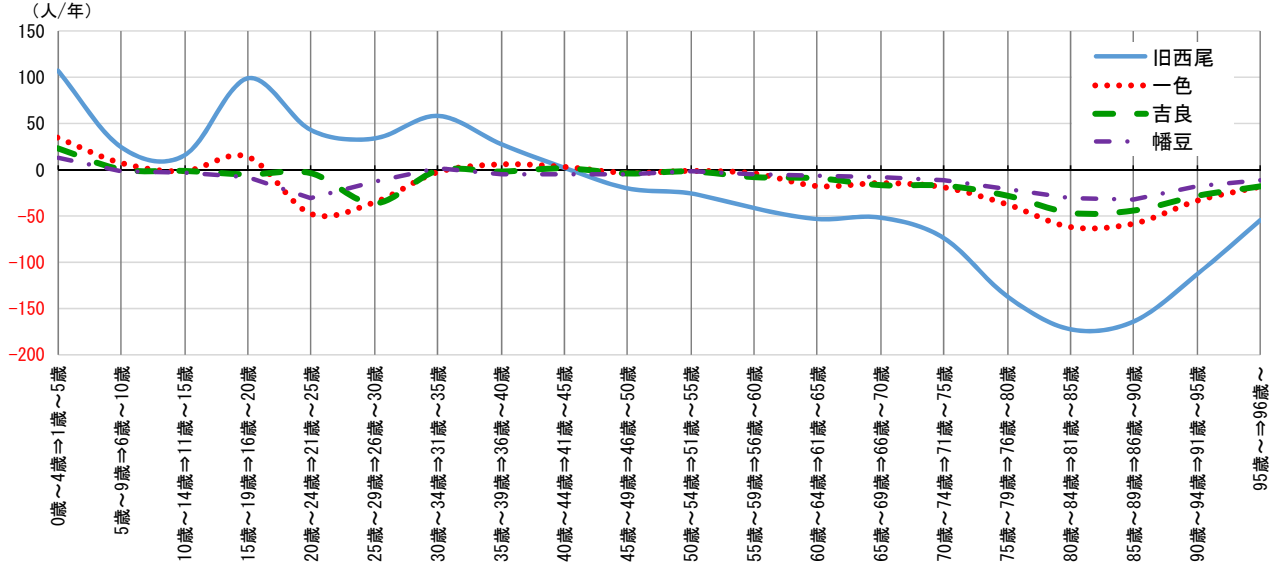
資料：住民基本台帳 (H22 (2010) ～26 (2014))

② 地域別の人口増減

旧市町の地区別にみると、旧西尾市の地区においては、44歳以下の年代では増加していますが、45歳以上は減少しています。

一色、吉良、幡豆地区は、減少している年代が多く、特に20代の減少が目立ちます。幡豆地区においては、0～4歳を除き、すべての世代で減少しています。

図表 24 地域別5歳階級別人口増減（西尾市）



資料：住民基本台帳（H22(2010)～26(2014)）

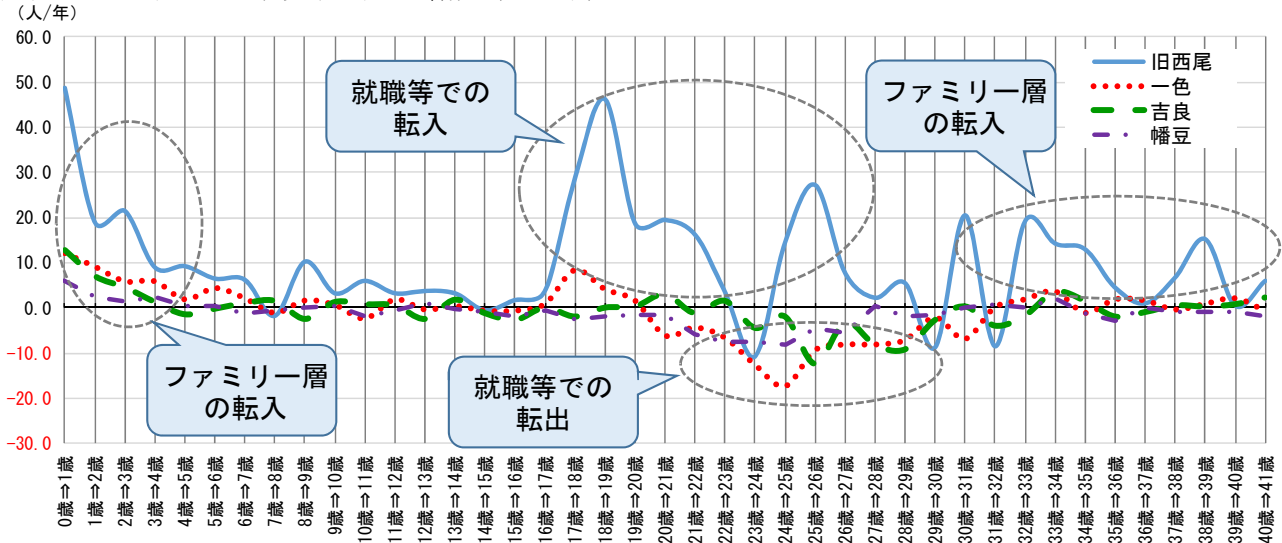
③ 40歳以下の人口増減

一色地区では、20代の減少が多くなっており、就職等で地区外へ転出している傾向が見られます。

吉良地区では、20代後半での減少が多くなっており、就職等で地区外へ転出している傾向が見られます。

幡豆地区では、10代後半から20代まで幅広い年代で減少しており、進学、就職等で地区外へ転出している傾向が見られます。

図表 25 地区別40歳以下の人口増減（西尾市）



資料：住民基本台帳（H22(2010)～26(2014)）

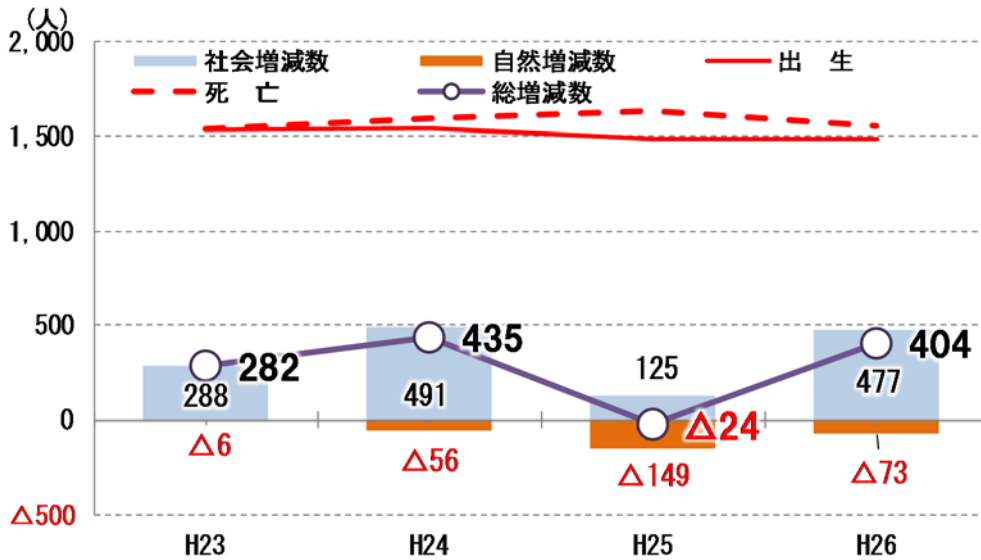
(5) 自然動態・社会動態

① 近年の自然動態・社会動態

自然動態では、合併以降、出生数が死亡数を下回る「自然減」が続いています。出生数は横ばいで推移しているものの、死亡数が増加傾向にあり、平成26(2014)年では、自然減少数が73人となっています。

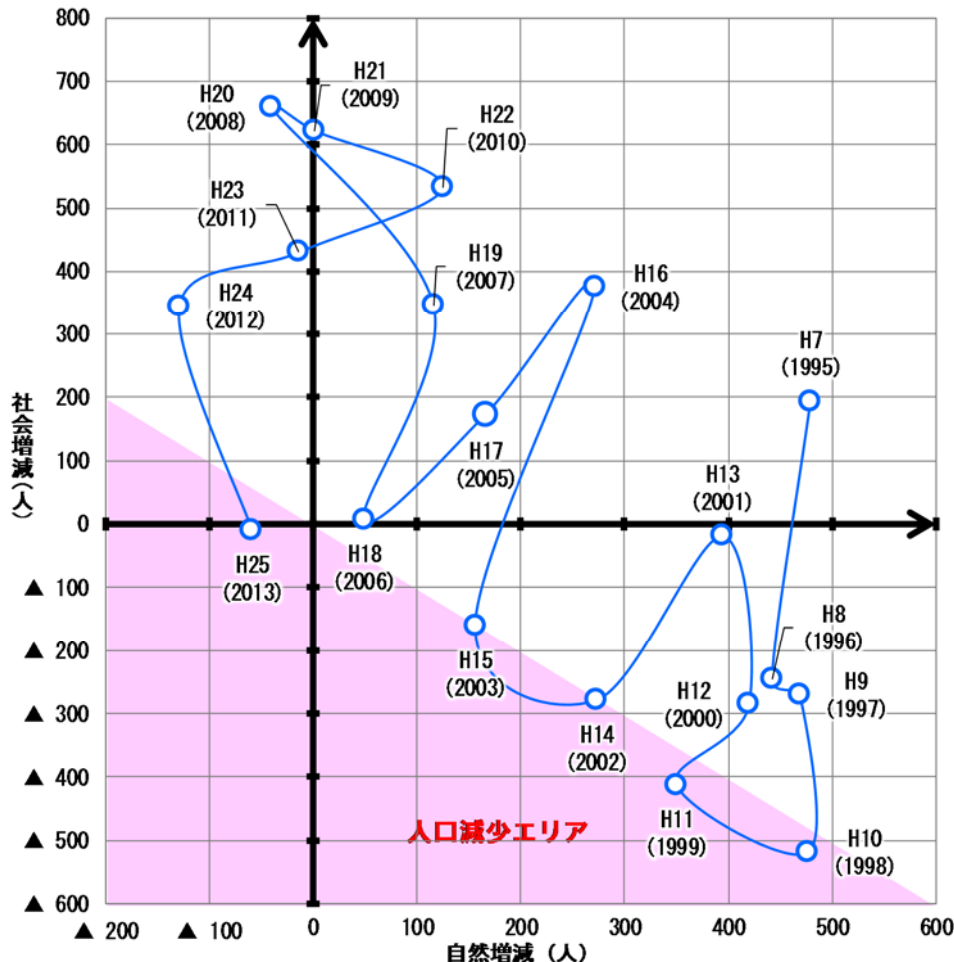
社会動態では、転入数が転出数を上回る「社会増加」の傾向が続いています。年によってばらつきはあるものの、年間100～500人程度の増加となっています。

図表 26 自然動態・社会動態の推移 (西尾市)



資料：市町村別推計人口

図表 27 自然動態・社会動態の推移 (西尾市)



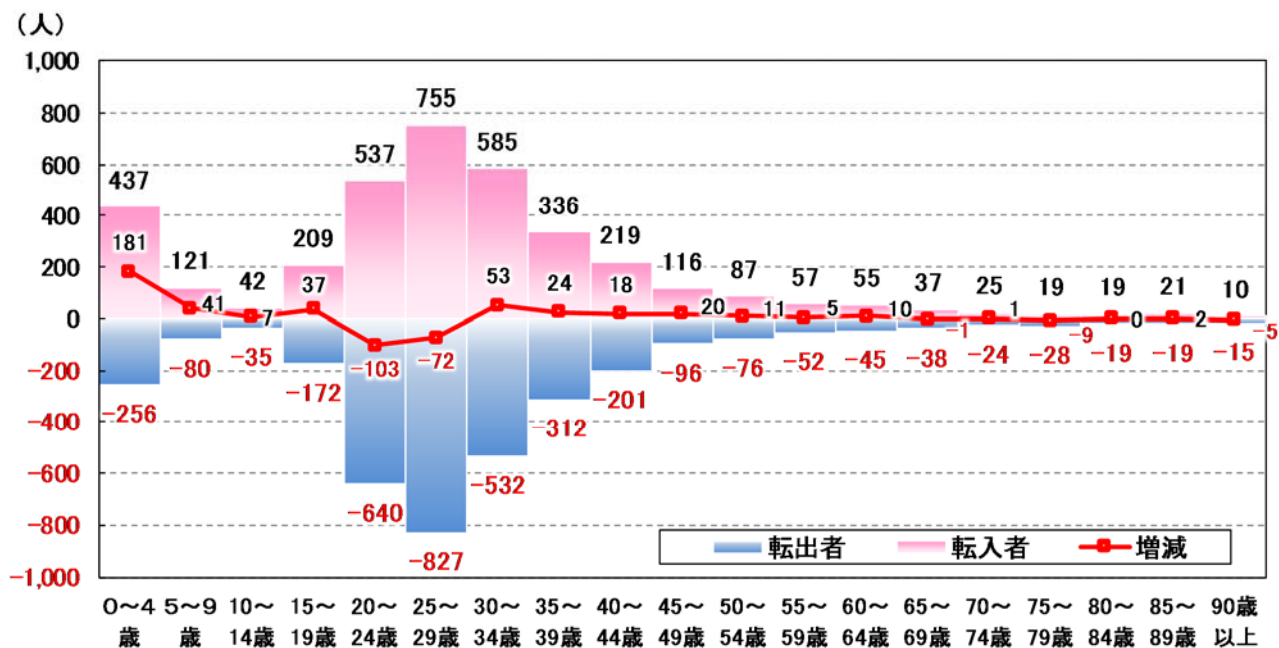
資料：地域経済分析システム (RESAS)

② 5歳階級別の社会動態

年齢5歳階級別に平成25(2013)年の転出入の動向をみると、「0～4歳」と「15～19歳」、「20～40代」で転出入者数が大きく、進学・就職期の若者と若年ファミリー層の社会移動が多くなっています。

転出入者数の差をみると、「0～4歳」「5～9歳」「30～34歳」などで転入超過が多く、一方、20歳代の進学・就職期で転出超過の傾向となっています。

図表 28 5歳階級別の社会動態 (H25 (2013) 年西尾市)



資料：住民基本台帳人口移動報告

③ 転入元の都市

平成 26(2014)、27(2015)年の本市への転入状況をみると、安城市、岡崎市、碧南市、刈谷市といった西三河地域と名古屋市からの転入が多くなっています。

年代は 20 代から 30 代と 4 歳以下の子どもの転入が多くなっています。

図表 29 転入元の上位 10 都市と東京都 (H26(2014)年、H27(2015)年の合計 (西尾市))

	総数	0~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~24 歳	25~29 歳	30~34 歳	35~39 歳	40~44 歳	45~49 歳	50~54 歳	55~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70~74 歳	75~79 歳	80~84 歳	85~89 歳	90歳以上	不詳
安城市	983	141	29	12	34	138	199	161	109	62	26	20	18	13	3	8	4	2	1	3	
岡崎市	916	143	38	11	15	78	197	175	91	44	24	22	12	15	18	12	7	6	7	1	
碧南市	595	85	28	10	14	62	115	106	62	36	17	11	9	17	6	3	6	5	2	1	
名古屋市	535	51	18	3	17	80	117	97	46	30	17	9	16	8	7	5	3	6	1	4	
刈谷市	378	45	15		45	52	70	52	45	28	3	8	5	3	1	4	2				
豊田市	236	21	9	1	12	44	52	35	18	11	8	2	5	8	3	2	3	1		1	
蒲郡市	196	28	5	2	6	23	40	34	14	10	12	6	2	2	3	3	2	1	3		
幸田町	191	34	5	2	2	10	41	40	23	16	7	2	1		1	3	1	1	2		
知立市	157	22	2	2	11	22	32	25	12	12	7	3	2	1	3		1				
高浜市	154	23	5		6	14	25	32	14	11	4		5		1	1	1		2		
東京都	152	12	4	1	5	30	41	18	17	9	3	7	1	1		2		1			

資料：住民基本台帳人口移動報告

④ 転出先の都市

転出先をみると、岡崎市、安城市、碧南市、幸田町、刈谷市の西三河地域と名古屋市への転出が多くなっています。

年代は 20 代から 30 代と 4 歳以下の子どもの転出が多くなっています。

図表 30 転出先の上位 10 都市と東京都 (H26(2014)年、H27(2015)年の合計 (西尾市))

	総数	0~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~24 歳	25~29 歳	30~34 歳	35~39 歳	40~44 歳	45~49 歳	50~54 歳	55~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70~74 歳	75~79 歳	80~84 歳	85~89 歳	90歳以上	不詳
岡崎市	891	84	23	10	26	132	234	165	76	47	24	21	22	9	5	1	5	3	2	2	
安城市	711	66	20	4	24	76	210	132	70	36	16	18	13	6	5	2	5	3	1	4	
名古屋市	646	33	10	2	24	149	177	94	50	35	13	11	8	7	7	10	9	2	1	4	
碧南市	457	46	7	4	20	62	105	75	47	24	14	9	10	8	7	3	4	3	5	4	
幸田町	297	23	10	5	9	70	80	47	22	7	6	1	4	6	1	2		2	2		
刈谷市	288	16	3	2	25	48	73	57	27	13	9	4	2	4	2			1	1	1	
蒲郡市	217	22	6	4	11	28	42	42	17	21	9	4	4	1	2	1	1	1	1		
豊田市	170	11		3	11	34	41	27	17	11	6	1	2	4		1	1				
豊橋市	140	7	5	1	3	20	33	22	13	15	5	2	4	2	1		3	1	3		
高浜市	134	19	2	1	4	14	34	20	16	8	8	3	2	1		1			1		
東京都	290	8	2	4	39	99	66	27	19	4	12	5	1	3					1		

資料：住民基本台帳人口移動報告



⑤ 転出入都市

転出入をみると、安城市、碧南市、刈谷市、豊田市、知立市、岡崎市、高浜市は転入超過、名古屋市、幸田町、蒲郡市、豊橋市は転出超過となっています。

年代をみると、転入超過となっている都市からは4歳以下と30～40代の転入が多く、転出超過となっている都市へは20代の転出が多くなっています。

図表 31 転出先の上位10都市と東京都（H26(2014)年、H27(2015)年の合計（西尾市））

	総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	不詳
安城市	272	75	9	8	10	62	-11	29	39	26	10	2	5	7	-2	6	-1	-1		-1	
碧南市	138	39	21	6	-6		10	31	15	12	3	2	-1	9	-1		2	2	3	-3	
刈谷市	90	29	12	-2	20	4	-3	-5	18	15	-6	4	3	-1	-1	4	2	-1	-1	-1	
豊田市	66	10	9	-2	1	10	11	8	1		2	1	3	4	3	1	2	1		1	
知立市	36	12	1	2	4	10	-22	11	4	4	5	2	2		3		1		2	-1	
岡崎市	25	59	15	1	-11	-54	-37	10	15	-3		1	-10	6	13	11	2	3	5	-1	
高浜市	20	4	3	-1	2		1	12	-2	3	-4	-3	3	-1	1		1		1		
豊橋市	-18	3		-1	5	-7	-9	1	-1	-6	-1	4	-3			1	-2		2		
蒲郡市	-21	6	-1	-2	-5	-5	-2	-8	-3	-11	3	2	-2	1	1	2	1		2		
幸田町	-106	11	-5	-3	-7	-60	-39	-7	1	9	1	1	-3	-6		1	1	-1			
名古屋市	-111	18	8	1	-7	-69	-60	3	-4	-5	4	-2	8	1		-5	-5	4			
東京都	-138	4	2	-3	-34	-69	-25	-9	-2	5	-9	2		-2		2		1	-1		

転入超過	
転出超過	

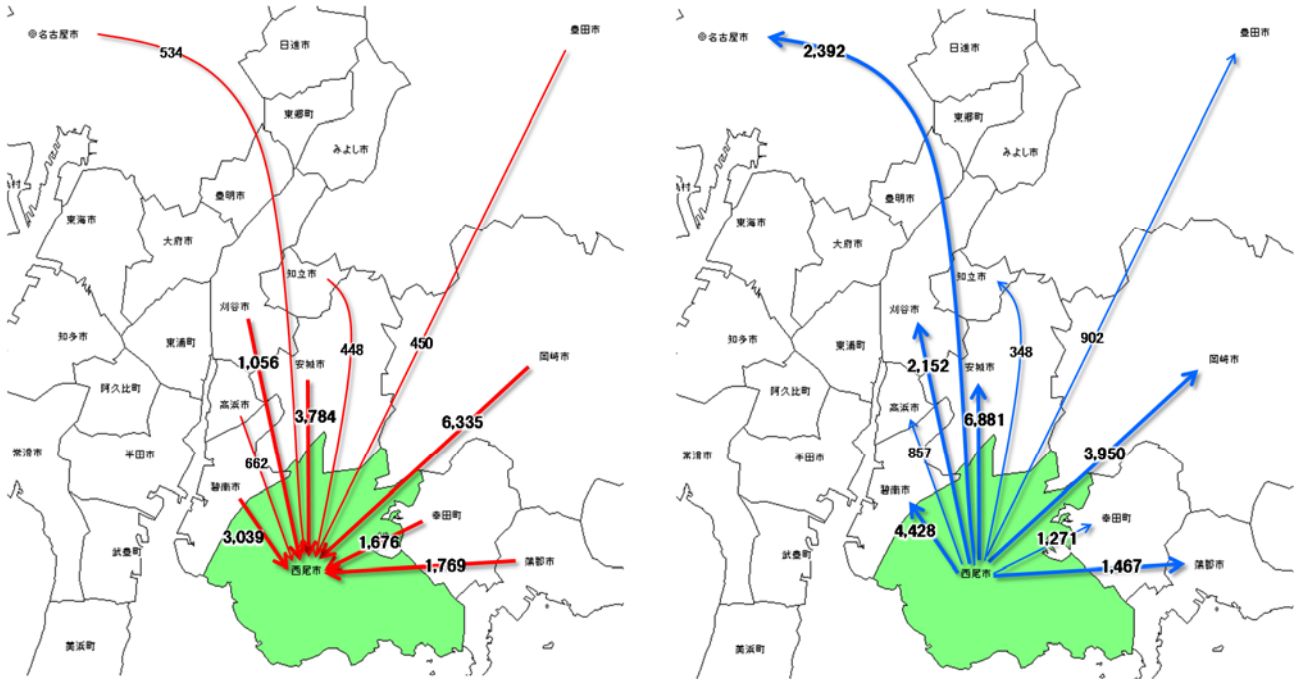
資料：住民基本台帳人口移動報告

(6) 通勤・通学動向

平成 22(2010)年の通勤・通学動向をみると、本市への流入は、岡崎市、安城市、碧南市、蒲郡市、幸田町、刈谷市など西三河地域からが多くなっています。

流出は、安城市、碧南市、岡崎市、名古屋市、刈谷市、蒲郡市、幸田町が多くなっています。

図表 32 H22(2010)年の通勤・通学動向（西尾市）



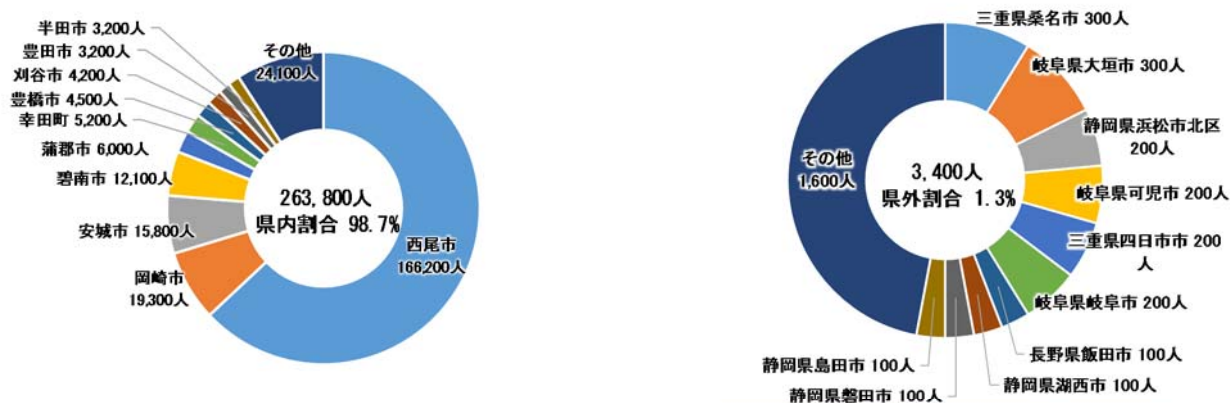
資料：国勢調査(H22(2010))

(7) 滞在人口（西尾市内に2時間滞留した人口）

平日の滞在人口は26.4万人あまりであり、その99%が愛知県内からの移動となっています。また、そのうち6割が西尾市内からの移動となっています。

休日の滞在人口についてもほぼ同様の傾向となっています。

図表 33 平日の滞在人口（西尾市）



区分	滞在人口	割合
西尾市	166,200人	63.0%
岡崎市	19,300人	7.3%
安城市	15,800人	6.0%
碧南市	12,100人	4.6%
蒲郡市	6,000人	2.3%
幸田町	5,200人	2.0%
豊橋市	4,500人	1.7%
刈谷市	4,200人	1.6%
豊田市	3,200人	1.2%
半田市	3,200人	1.2%
その他	24,100人	9.1%
合計	263,800人	100.0%

区分	滞在人口	割合
三重県桑名市	300人	8.8%
岐阜県大垣市	300人	8.8%
静岡県浜松市北区	200人	5.9%
岐阜県可児市	200人	5.9%
三重県四日市市	200人	5.9%
岐阜県岐阜市	200人	5.9%
長野県飯田市	100人	2.9%
静岡県湖西市	100人	2.9%
静岡県磐田市	100人	2.9%
静岡県島田市	100人	2.9%
その他	1,600人	47.1%
合計	3,400人	100.0%

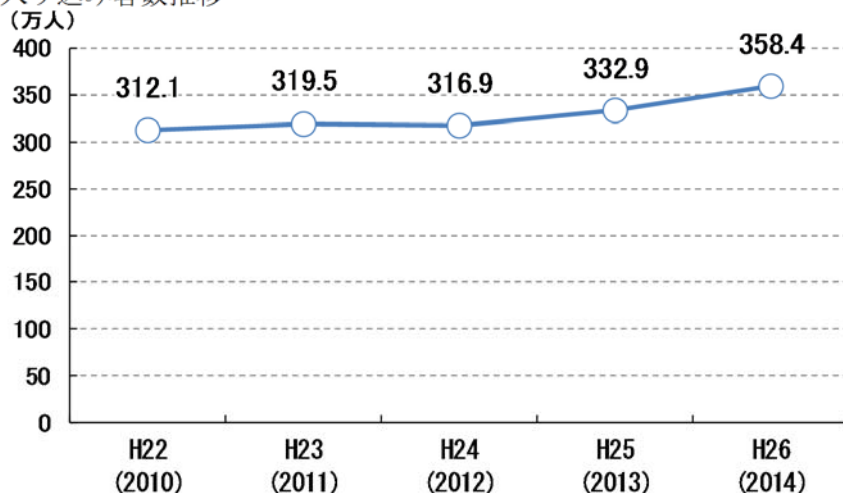
資料：地域経済分析システム (RESAS) (株式会社 Agoop 「流動人口データ」)

(8) 交流人口

① 観光入り込み客数の推移

近年5か年の市内の観光入り込み客数の動向をみると、平成24(2012)年以降、市内の観光入り込み客数は増加傾向にあり、平成26(2014)年には約360万人となっています。

図表 34 観光入り込み客数推移

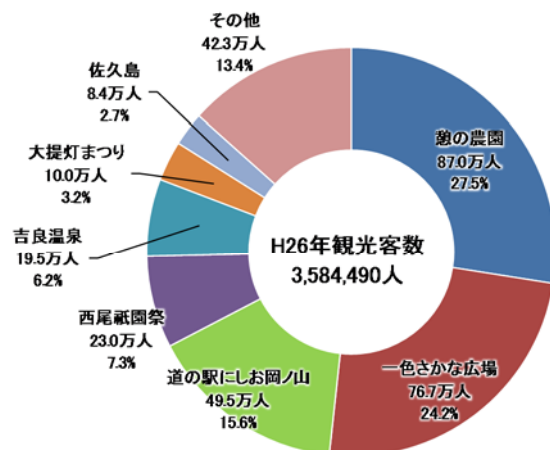


資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計、憩の農園実績(商工観光課)

② 観光資源・施設別観光入り込み客数

観光資源・施設別に観光入り込み客数をみると、西尾市において最も大きな集客力をもつ観光地は「憩の農園」で年間約 87 万人、次いで「一色さかな広場」が年間約 77 万人、「道の駅にしお岡ノ山」が約 50 万人となっており、買い物客が中心の 3 つの施設で、全体の約 67% を占めています。

図表 35 観光資源・施設別観光入り込み客数



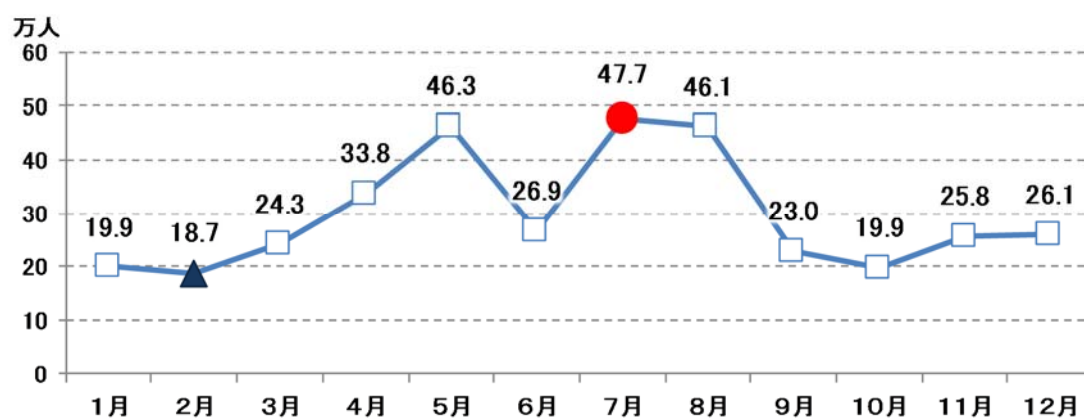
資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

③ 月別観光入り込み客数

平成 26(2014)年の市内の観光入り込み客数の動向を月別にみると、7月の観光入り込み客数が最も多く約 47.7 万人、次いで5月の 46.3 万人、8月の 46.1 万人と大型連休や夏休みがある月の利用が多くなっています。逆に、最も利用が少ない月は、2月の 18.7 万人、次いで1月、10月の 19.9 万人となっており、秋の行楽シーズンや年明けに観光入り込み客数が少なくなっています。

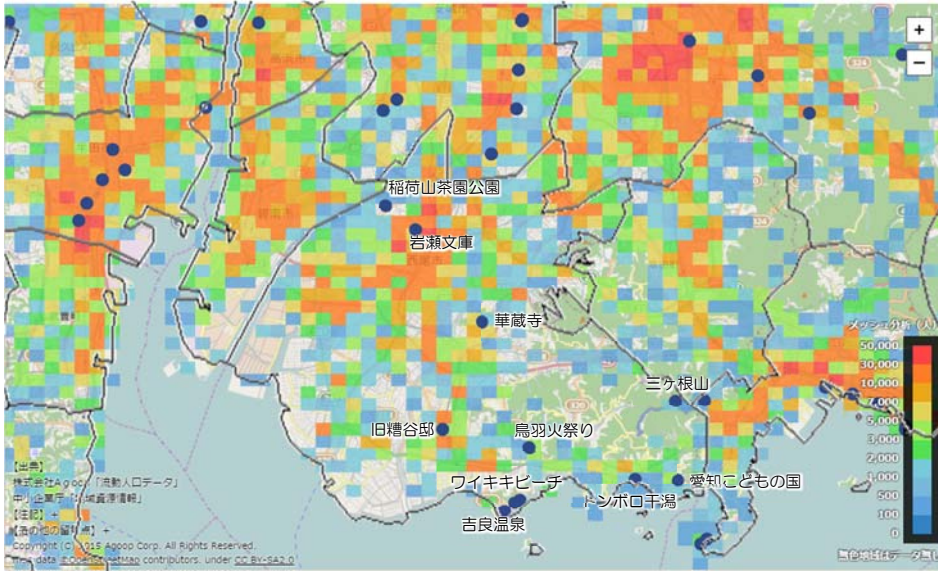
地域経済分析システム (RESAS) により、平成 26(2014)年の2月と7月、10月 (いずれも休日) の市内の流動人口の分布をみると、2月は7月と比較して、一色、吉良、幡豆地区の沿岸部において、流動人口が少なくなっており、旧西尾市内ではそれほど変化がありません。10月は7月と比較して、旧西尾市内で流動人口が少なくなっています。

図表 36 月別観光入り込み客数推移

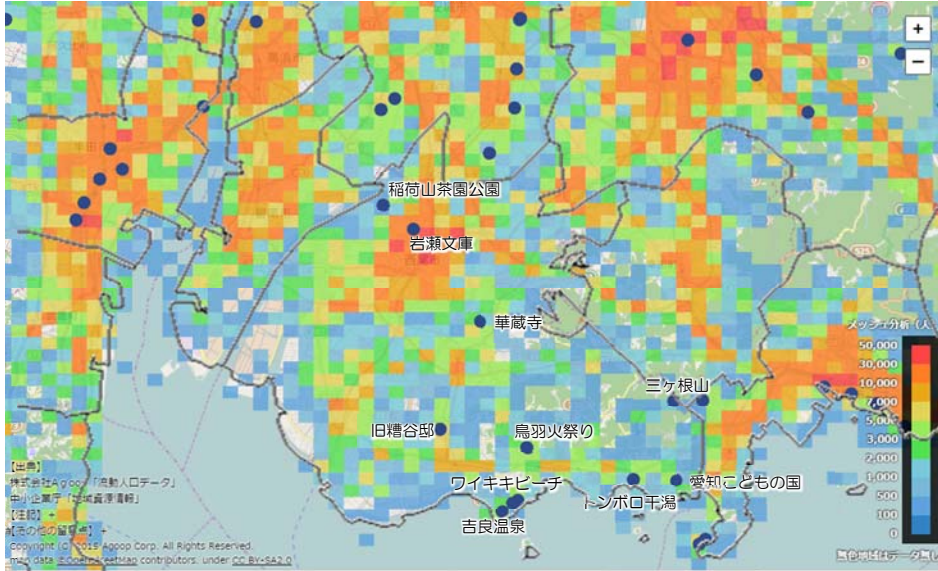


資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

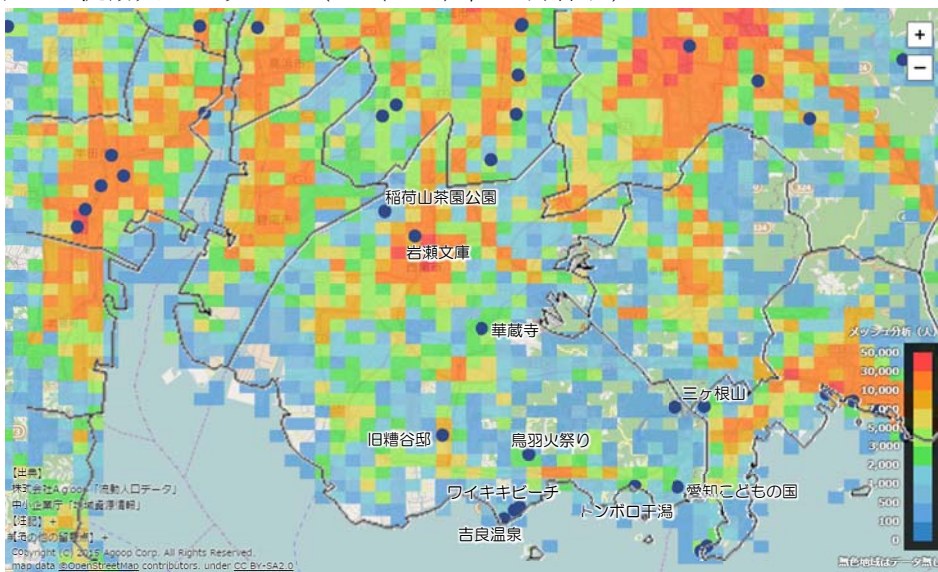
図表 37 流動人口メッシュ (H26(2014)年2月休日)



図表 38 流動人口メッシュ (H26(2014)年7月休日)



図表 39 流動人口メッシュ (H26(2014)年10月休日)



資料：地域経済分析システム (RESAS)